

日本の技能実習経験に対するベトナム人若年層の「希望」とその「評価」

The Hope of Vietnamese Young People for Japanese Technical Intern Training Program and Its Estimation

○ 岡山大学 駄田井 久

ノートルダム清心女子大学 二階堂 裕子

目的

日本の外国人技能実習生(以下、「技能実習生」)は2018年に28万人を超えている。安藤(2011)・軍司ら(2016)は、過疎高齢化が深化する日本の農村地域では、技能実習生が大規模農業経営に不可欠であることを指摘している。恵羅(2018)は、建築分野における技能移転の可能性を示唆している。また、後藤(2015)は、経済モデル分析を適用し現在の制度では技能実習生の受け入れが日本全体の経済にネガティブな影響を与えているとしている。眞住(2018)は、水産分野では、技能実習生制度の活用に大きな地域差があり、その活用には相対的に経営が良好な地域に特定されていることを明らかにしている。この様に、技能実習生やその制度に関しては、様々な立場からそれぞれの見解が示されており、その是非や有用性に関して多くの議論がなされている。これらの研究は、日本国内の実習生や受け入れ機関での調査に基づいたものが大半である。一方で、実習生自身の日本での実習・生活への「期待」や「希望」を調査したものはほとんど見られない。実習生自身の「期待・希望」と日本国内の実習・生活のギャップを減らす方策が、より良い技能実習制度には必要であると考えられる。そこで、本研究では、質問票調査から技能実習生の技能実習に対する「希望」を明らかにし、選択型実験の適用によりその「評価」を行う。

方法

2019年3月20・22日にホーチミン市内の日本に向けて実習生を送り出している二つ送り出し機関において、インタビュー及び質問票調査を実施した。インタビュー調査は送り出し機関の職員(2名)、質問票調査は日本での就労を希望する技能実習生(99名)をそれぞれ対象とした。調査票は、性別・年齢・出身地等の属性、日本での技能実習や生活への希望など(10項目)、表1に示す5属性を用いた選択型実験で構成した。インタビューは日本語、調査票はベトナム語で実施した。

結果・結論

回答者は、男性70名(73.7%)、女性25名(26.3%)、平均年齢は22.2歳であった。技能実習生を目指した理由としては、「海外での経験を得るため(4.69, 5段階評価の平均点)」,日本での実習を選択した理由としては、「日本語能力の獲得(4.78)」が最も高かった。選択型実験の結果、「日本政府の公的な制度」が他属性と比較して、非常に高く評価していることが明らかとなった(表1)。以上のことから、技能実習生が、「自身のスキルアップ」を希望している、一方で「不安」も大きく公的制度が非常に重要であると考えられる。

表1. 選択型実験の概要と結果

属性	水準	係数(Z値)	WTP	P値
実習期間中のベトナム人スタッフによるサポート	有・無(有=1, 無=0)	1.06(5.47)	346.6	***
N2級レベルの日本語学習の機会	有・無(有=1, 無=0)	0.67(3.63)	219.9	***
日本政府の公的な制度	有・無(有=1, 無=0)	2.23(11.89)	732.1	***
帰国後の就職斡旋	有・無(有=1, 無=0)	1.11(5.48)	362.1	***
月収(手取り)	5・10・15・20万円/月	0.003(2.82)	-	**

注) P値は、それぞれ***<0.001, **<0.01を表す。